

地下茎と植物の材料

39号

86.9.
地下茎
発行

「常民の科学」を授業に...

「常民の科学」などというコトバがあるのがどうも知らぬ。常民、それは「生産者」と呼びかえてもよいのかも知らぬ。近代科学(現代科学)の恩恵にあずかる側の人々。あるいは、それによって切り捨てられる側に位置してきた人々と鏡み変えていいのかも知らぬ。では、その人々にとって「科学」はなにかののだろうか。木々は「草木染」に熱心をもつなかで、そのことに少し疑問をもつようになった。藍染めをやっておられる正木風枝さんは、「藍は生きていきよ」「藍は薬です」と言っていたです。なるほど、他の草木染めの材料となるような植物は、かならずと言ってよいほど「薬草」なんです。

紅花にしかり、紫根にしかり...。これは、あたり前のことで、すごく大切なことだと思つてます。いつも身につけるものを「薬」あるようなもので染めたりしよせんよね。ここに、木々は、すごい「科学」を見る思いがするんです。二つして、かって、常民は植物と、いやそれのみならず、自然とつきあってきたんです。それは、常民の「知恵」という形で、あるいは、「技術」として結晶化してきたのです。

また、そこに教材の「宝庫」があるのです。こ言うよりも、そのことの伝承こそ教育の「原点」があると言えのではないのでしょうか。

近代科学は、なるほど、スピーディに、99%のモノを「生産」することを可能し、昔とちる労働から常民を解放してくれました。しかし、同時に、「常民の科学」を簡単に弄しさってしまつたところがあるのでは...

教育は「文化」の問題です。授業は文化です。だとしたら、今、一座、常民が営々として、生産のなかで「継承」「創造」してきた文化のなかで、「自然を豊かにとらえる」術を学ぶことも、意義あることと思つたが。(K)

10月18日(土) 例会

福崎高校
化学(準)室
PM 2:00~

- ▶ 「化学変化のオーストリア」(中1)、新しい実験を加えて...。小倉からと...
- ▶ 実験: 知々と新しいモノが入っている。楽しみに...

10月25日(土) 学習会

- ▶ 「大地の動きをさぐる」(5期-オ6回)
6章: 地震断層。地学にくわしい人、参加して色々教えて下さい。

